

会員サイト

5月9日

<会員ポジション>

() は注文中・数字のみは建玉中・赤は決済済み

銘柄	限月	建玉日	建玉値段	売枚数	買枚数	終値	新規注文	ロスカット	利食目標
金	1	2018/12	1/17	4739 円		1	4597 円		
	2	2019/04					4589 円		
白金	1	2019/02	4/3	3195 円		1	3208 円		
	2	2019/04					3203 円		
コーン	1	2019/03	2/16	22580 円	2		25100 円		
	2	2019/03	3/9	23600 円	2		25100 円		
ゴム	1	2018/09	4/20	186 円		1	191.1 円		186 円以下 195 円以上
	2	2018/10	4/26	187.9 円		1	191.7 円		186 円以下

※この会員ポジションは、元本を保証しているものではありません。必ず、ご自身の判断でお願い致します。

世界のETF取組高

銘柄	4月27日時点	前日比	主な増減
金	2080.65	+6.34	
銀	20000.38	-6.63	
白金	68.34	+0.17	
パラジウム	36.28	-0.28	

1トン単位

東京トウモロコシの需給・作付面積・四半期在庫予想（4月10日時点）

需給報告	事前予想	FCストーン	インフォーマ	前回
単収 (/)				176.6Bu (3/08)
生産高 (/)				146.04億 Bu (3/08)
期末在庫 (/)				21.82億 Bu (4/10)
四半期在庫 (/)				88億8800万 Bu(3/29)
作付面積 (/)				8803万エーカー (3/29)

※赤は結果の数字になります。

東京金

一目均衡表	基準値	転換値	雲上限	雲下限
	4593 円	4611 円	4606 円	4518 円
移動平均線 (日足)	5 日	25 日	200 日	
	4604 円	4601 円	4575 円	
移動平均線 (週足)	5 週	25 週	200 週	
	4601 円	4595 円	4448 円	
RSI (14日)	51.3%	乖離率 (13日)	-0.3%	乖離率 5% が 目安
RSI (14週)	51.1%	乖離率 (13週)	0.9%	

ブルーの印は上値抵抗。イエローは下値支持、グリーンはポイント。

ボリンジャーバンド

$\sigma = +2$	$\sigma = +1$	中心線	$\sigma = -1$	$\sigma = -2$
4656 円	4636 円	4615 円	4595 円	4574 円

CFTC 建玉明細 (~までの一週間)

日付	総取組高	買い	売り	買い - 売り
4/3	493,141	234,677	68,088	166,589
4/10	499,588	234,457	79,085	155,372
4/17	510,229	237,288	74,219	163,069
4/24	506,410	225,804	89,158	136,646
5/1	507,756	209,577	102,798	106,779
前週比	1,346	-16,227	13,640	-29,867

コメント 本日の予想レンジ 4615 円~4600 円
今週の予想レンジ 4580 円~4630 円

8日の金現物相場は横ばい。一時上昇したものの、あと値を消した。米国のイラン核合意からの離脱懸念を背景に米ドルは年初来高値を更新したが、その後反落した。金現物相場は米東部時間午後1時32分(1732 GMT)時点で、横ばいの1オンス=1313.76ドル。先物6月きりの清算値は0.40ドル(0.03%)安の1313.70ドル。フォレックス・ドット・コムファワード・ラザクザダ氏は「トランプ大統領が核合意から離脱すれば、金相場は上昇するだろうが、上昇が長く続くかは疑問だ」と指摘した。米国の核合意離脱決定は、幅広い市場でリスク回避姿勢が高まり、金には支援材料。ドル高が依然重しだが、金は地政学的な混乱の際には安全資産としてみられる。同氏は「金相場の方向に大きな影響を与えているのはドルに違いない」と述べた。米ドルの対バスケット相場は、一時年初来高値を付けた。米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策正常化に他の中央銀行が追随するとの予想や、イランをめぐるトランプ大統領の発表に関連し、安全な逃避先を求める資金が流入した。貴金属調査会社GFMSは、金相場が今年、5年ぶりの高いパフォーマンスを記録すると予想した。

ファンドが売りポジションを、国内市場で増やしていることから、上値の重い展開となりました。昨日も、夜間取引で下値模索の動きとなりましたが、今回の米国のイラン核合意離脱は、あまりマーケットの混乱とならなかったことから、リスクオンの動きとなっているようです。しかも、核合意から離脱し、イランへの制裁を強化させる狙いがあるため、中東問題に発展する恐れがあります。そうなりますと、今は大きな下げも期待できないと考えます。ただし、4615円を上抜けない限りは、再び4575円~4550円も意識しておく必要があります。いずれにしましても、相場は一進一退の動きが予想されるため、4550円~4650円のレンジを当面考えていきたいと思えます。

東京白金

一目均衡表	基準値	転換値	雲上限	雲下限
	3225 円	3217 円	3406 円	3283 円
移動平均線 (日足)	5 日	25 日	200 日	
	3208 円	3227 円	3349 円	
移動平均線 (週足)	5 週	25 週	200 週	
	3216 円	3312 円	3671 円	
RSI (14 日)	48.8%	乖離率 (13 日)	-0.1%	乖離率 7% が 目安
RSI (14 週)	42.4%	乖離率 (13 週)	-1.1%	

ボリンジャーバンド

$\sigma = +2$	$\sigma = +1$	中心線	$\sigma = -1$	$\sigma = -2$
3274 円	3248 円	3223 円	3197 円	3172 円

CFTC 建玉明細 (~までの一週間)

日付	総取組高	買い	売り	買い - 売り
4/3	75,757	47,033	23,290	23,743
4/10	76,230	46,435	27,435	19,000
4/17	76,193	45,236	27,589	17,647
4/24	76,044	46,015	28,183	17,832
5/1	80,633	47,582	36,818	10,764
前週比	4,589	1,567	8,635	-7,068

コメント 本日の予想レンジ 3227 円~3197 円
今週の予想レンジ 3200 円~3250 円

東京白金は、買い方針とします。昨日は、米国がイラン核合意からの離脱懸念で売られましたが、米国からの離脱や、イランへの制裁猶予が 180 日間あるという事から、リスクオンの動きとなっております。昨日もお伝えしておりますが、3100 円台は買い方針とします。本日のポイントは、3223 円~3325 円を上回って取引終了するかになります。昨日は、3193 円を維持したことから、徐々に 3200 円根固めが予想されます。いずれ、975 ドル、112 円の相場があると予想します。

東京トウモロコシ

一目均衡表	基準値	転換値	雲上限	雲下限
	24450 円	25030 円	23560 円	23140 円
移動平均線 (日足)	5 日	25 日	200 日	
	25310 円	24620 円	22660 円	
移動平均線 (週足)	5 週	25 週	200 週	
	24900 円	23330 円	22960 円	
RSI (14 日)	68.2%	乖離率 (13 日)	1.6%	乖離率 5% が 目安
RSI (14 週)	75.2%	乖離率 (13 週)	5.8%	

ボリンジャーバンド

$\sigma = +2$	$\sigma = +1$	中心線	$\sigma = -1$	$\sigma = -2$
25750 円	25230 円	24720 円	24200 円	23690 円

CFTC 建玉明細 (~までの一週間)

日付	総取組高	買い	売り	買い - 売り
4/3	1,865,937	628,395	261,078	367,317
4/10	1,882,013	613,047	230,743	382,304
4/17	1,854,949	584,507	244,447	340,060
4/24	1,797,330	580,604	247,188	333,416
5/1	1,750,116	622,871	229,164	393,707
前週比	-47,214	42,267	-18,024	60,291

コメント 本日の予想レンジ 25400 円~25230 円
今週の予想レンジ 25700 円~25000 円

反発。テクニカルな買いが入ったほか、米中西部北域での作付けの遅れをめぐる懸念が支援材料になった。7月きりの清算値は2.50セント高の403.25セント。一時は400セントの節目を1週間ぶりに下回ったが、値を戻した。米農務省が7日発表したクロップ・プログレスによると、トウモロコシの作付け進捗(しんちよく)率は39%と市場予想を上回ったが、過去5年平均の44%を下回った。

基本は売り主体で考えていきたいものの、テクニカル面が買い継続であるため、やはり10日の需給報告前後で考えていきたいと思えます。需給報告の市場予想は、期末在庫が16億3100万Bu、生産高は140億9100万Buとなっております。この水準でありますと、単収は175Buという事になります。意外に単収は弱気の見方をしているように思えます。前年度で単収が176.6Buであったため、仮に174Bu以下といった数字になりますと、やや発表直後は買い直されることが予想されます。

東京市場では、25030円~25230円が下値の支持線になりますので、この価格帯を下回らないと、売り叩かれにくいのは仕方ないことです。

東京ゴム

一目均衡表	基準値	転換値	雲上限	雲下限
	185.4 円	189.9 円	194.8 円	183.8 円
移動平均線 (日足)	5 日	25 日	200 日	
	191.0 円	187.1 円	200.6 円	
移動平均線 (週足)	5 週	25 週	200 週	
	188.3 円	193.4 円	214.6 円	
RSI (14 日)	58.4%	乖離率 (13 日)	1.5%	乖離率 10%~ 15%が目安
RSI (14 週)	48.4%	乖離率 (13 週)	2.9%	

ボリンジャーバンド

$\sigma = +2$	$\sigma = +1$	中心線	$\sigma = -1$	$\sigma = -2$
194.6 円	190.5 円	186.3 円	182.2 円	178.0 円

コメント 本日の予想レンジ 193.0 円~190.5 円
今週の予想レンジ 185.0 円~195.0 円

タイRSS3号の日本向けオファー（5月積）は200円を若干上回っているだけに、その割安幅は15~16円見当まで広がっている。タイ産シートの日本向けオファーが強含んでいるのは、『雨がちの天候で採液作業が停滞しているため、原料の回りが少ない』（市場関係者）によるものだが、ただ、タイはインドネシア、マレーシア3カ国で1~3月に輸出を削減、その結果、『製品在庫が多くあり、供給に支障はない』（同）としており、原料不足は一時的な現象かも知れない。

このため、『東京ゴム先限がタイRSS3号のオファー、つまり、その採算値である200円強まで戻すのは無理かも知れないが、それでも、195円がらみまで反発してもおかしくあるまい』（同）との見解もある。

東京ゴムは、買い方針継続です。相場の分岐点は、185.4円~186.3円になり、190円前後は買い方針とします。195円を上抜けると、200円を目指すと予想しております。